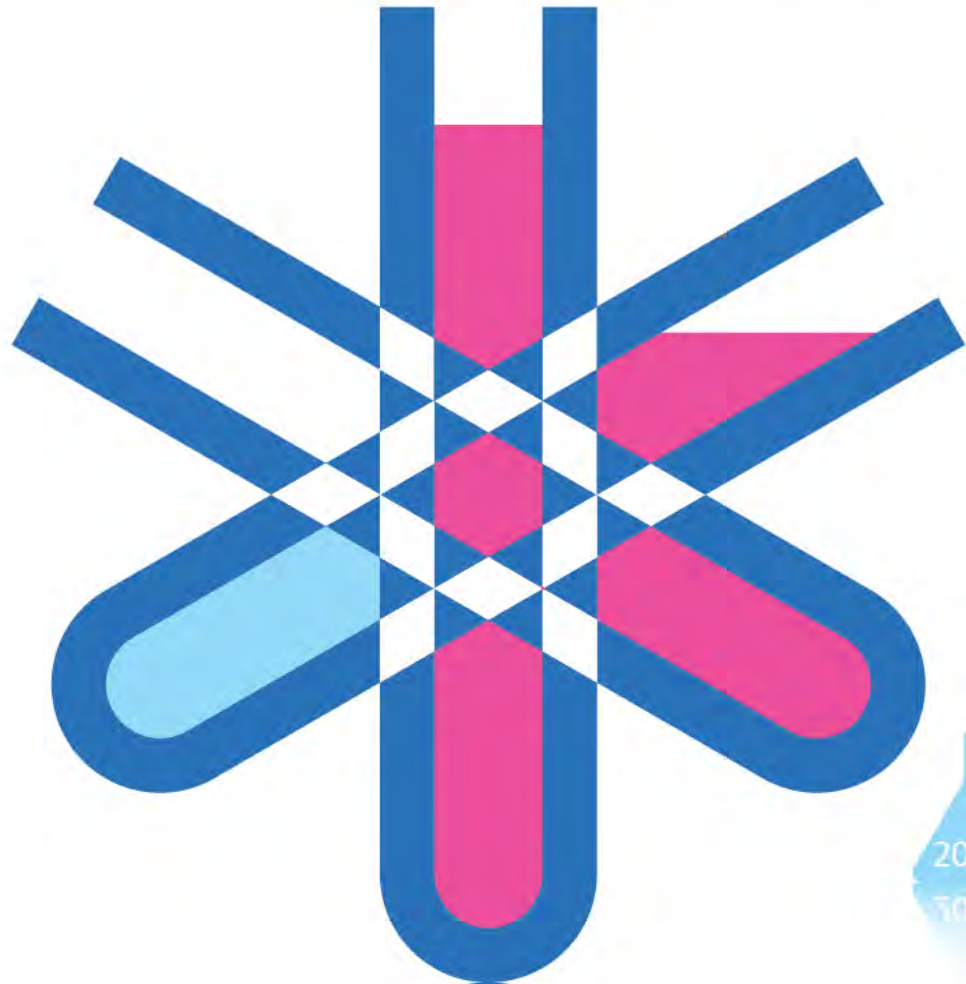


横查情報月報



2017
3月

横浜市衛生研究所

平成29年3月号 目次

【トピックス】

食品中の動物用医薬品検査結果	1
残留農薬検査(その4)	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 2月	5
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	9
---------------------	---

食品中の動物用医薬品検査結果

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成28年9月から平成29年1月までに食品専門監視班が収去及び購入した食品の検査結果を報告します。

9月にインターネットを通じて購入した、畜産食品10件(馬の筋肉1件、キジの筋肉1件、鹿の筋肉1件、鶏の筋肉3件、羊の筋肉2件及びホロホロ鳥の筋肉2件)について検査を行いました。その結果を表1に示します。鶏の筋肉1件から合成抗菌剤ナイカルバジンが0.09ppm(基準値0.2ppm)検出されましたが、他の食品については全ての項目で不検出でした。

市内流通品について、11月に牛乳4件、鶏卵4件、1月に鶏の筋肉10件の検査を行いました。その結果、表2に示すとおり全ての項目で不検出でした。

表1 インターネット購入品の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果						検出限界
	馬 (1件)	キジ (1件)	鹿 (1件)	鶏 (3件)	羊 (2件)	ホロホロ鳥 (2件)	
【合成抗菌剤】							
エンフロキシシン (シプロフロキシシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノトキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナイカルバジン	—	—	—	0.09(1件)	—	—	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【内寄生虫用剤】							
フルベンダゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

表2 市内流通品の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果			検出限界
	牛乳 (4件)	鶏卵 (4件)	鶏の筋肉 (10件)	
【合成抗菌剤】				
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファペリジン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメプリム	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	—	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	—	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】				
オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン 及びテトラサイクリンの和	N.D.	—	—	0.02
【内寄生虫用剤】				
フルベンダゾール	—	—	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

残留農薬検査(その4)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成28年11月及び平成29年2月に食品専門監視班及び各区福祉保健センターが搬入した農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

11月に搬入されたキャベツ(4検体)、かぶの根、さといも、だいこんの根及びブロッコリー(各2検体)、つるむらさき、にんじん及びほうれんそう(各1検体)、2月に搬入された京いも、こまつな、さといも、だいこんの根、にんじん、はくさい及びブロッコリー(各1検体)の計22検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。ブロッコリーからペルメトリンが0.03ppm、だいこんの根からホスチアゼートが0.01ppm検出されましたが、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H28年11月～H29年2月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かぶの根	横浜市	2	0			
キャベツ	横浜市	4	0			
京いも	横浜市	1	0			
こまつな	横浜市	1	0			
さといも	横浜市	3	0			
だいこんの根	横浜市	3	1	ホスチアゼート	0.01	0.2
つるむらさき	横浜市	1	0			
にんじん	横浜市	2	0			
はくさい	横浜市	1	0			
ブロッコリー	横浜市	3	1	ペルメトリン	0.03	2
ほうれんそう	横浜市	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	検出			農薬名	検出 限界 (ppm)	検出		
		A*1	B*1	C*1			A	B	C
BHC(α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○*2	-*2	-	エンドリン	0.005	-	○	-
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	オキシカルボキシ	0.01	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	オリザリン	0.01	-	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	カズサホス	0.01	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	カフェンストロール	0.01	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○
アニコホス	0.01	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	グミルロン	0.01	○	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	クロリダゾン	0.01	○	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	クロルフェンゾン	0.01	○	○	○
エンドスルファン(α 及び β の和)	0.005	-	○	-	クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C	農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C
クロロスロン	0.01	○	○	○	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	フェノプカルブ	0.01	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	フェリムゾン	0.01	○	-	-
シアノホス	0.01	○	○	○	フェンアミドン	0.01	○	○	○
ジウロン	0.01	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○
ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○
ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	フェントラザミド	0.01	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	フェンバレレート	0.01	-	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	フェンピロキシメート	0.01	-	○	○
シフルトリン	0.01	-	○	○	フェンプロパトリン	0.01	-	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	-	ブタフェナシル	0.01	○	○	○
シペルメトリン	0.01	-	○	○	ブタミホス	0.01	○	○	○
ジメチリモール	0.01	-	-	○	フラメピル	0.01	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	フルシトリネート	0.01	-	○	○
スルプロホス	0.01	○	○	○	フルバリネート	0.01	-	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	フルフェナセット	0.01	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	-	○	プロシミドン	0.01	○	○	○
テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○
テトラジホン	0.01	○	○	○	プロピザミド	0.01	-	○	○
テブチウロン	0.01	○	○	○	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-
テブフェノジド	0.01	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-
テフルトリン	0.01	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○
トラルコキシジム	0.01	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○
トリフルムロン	0.01	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	ペントキサゾン	0.01	○	-	-
ノバルロン	0.01	-	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-
パラチオン	0.01	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○
ピフェントリン	0.01	○	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○
ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	メキシフェノジド	0.01	○	○	○
ピラゾリネート	0.01	-	-	○	メビンホス	0.01	○	○	○
ピリフタリド	0.01	○	○	○	モノリニューロン	0.01	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	-
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○
フェントロチオン	0.01	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	-	○	○

*1 A:こまつな、つるむらさき、にんじん、ブロッコリー、ほうれんそう

B:かぶの根、キャベツ、だいこんの根、はくさい

C:京いも、さといも

*2 ○:実施、-:実施せず

*3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行警報が発令されています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

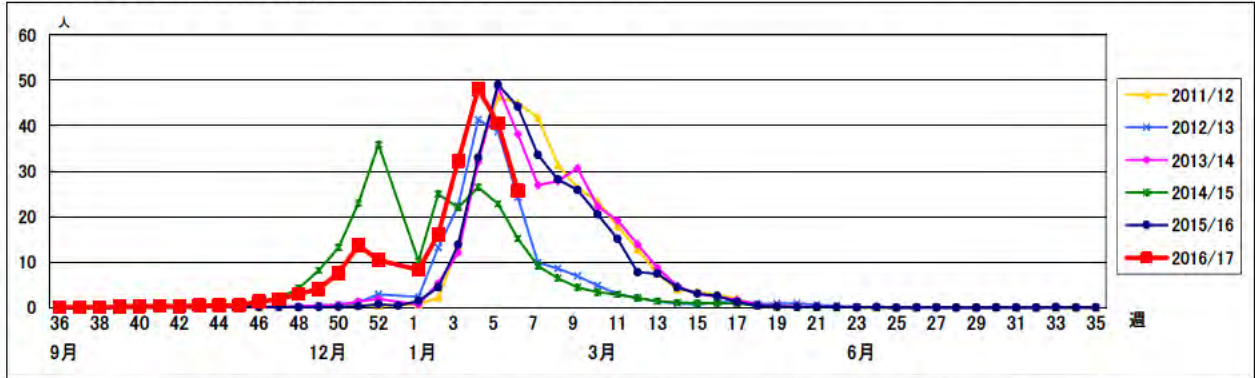
腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
ウイルス性肝炎(E型及びA型肝炎を除く)	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	梅毒	4件
急性脳炎	2件	風しん	2件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O不明の報告が1件ありました。韓国での経口感染が疑われています。
- 2 アメーバ赤痢: 2件の報告(腸管アメーバ症1件、腸管外アメーバ症1件)がありました。感染経路は、国内での性的接触(異性間)が1件、感染経路等不明が1件でした。
- 3 ウイルス性肝炎(E型及びA型肝炎を除く): 1件のC型の報告があり、感染経路は針刺しが疑われています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 急性脳炎: インフルエンザAによる幼児の報告が1件、病原体不明の10歳代の報告が1件ありました。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2件が報告され、うち1件がB群で、1件はG群でした。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 性的接触(同性間)による無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 30～80歳代の8件の報告があり、うち1件はワクチン接種歴を確認できましたが、7件についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 9 梅毒: 4件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒 I 期3件)がありました。いずれも国内での感染で、男性3件、女性1件でした。感染経路は、異性間性的接触が3件、詳細不明の性的接触が1件でした。
- 10 風しん: 2件の報告がありました。1件はインドネシアでの感染、1件は感染地域不明です。いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

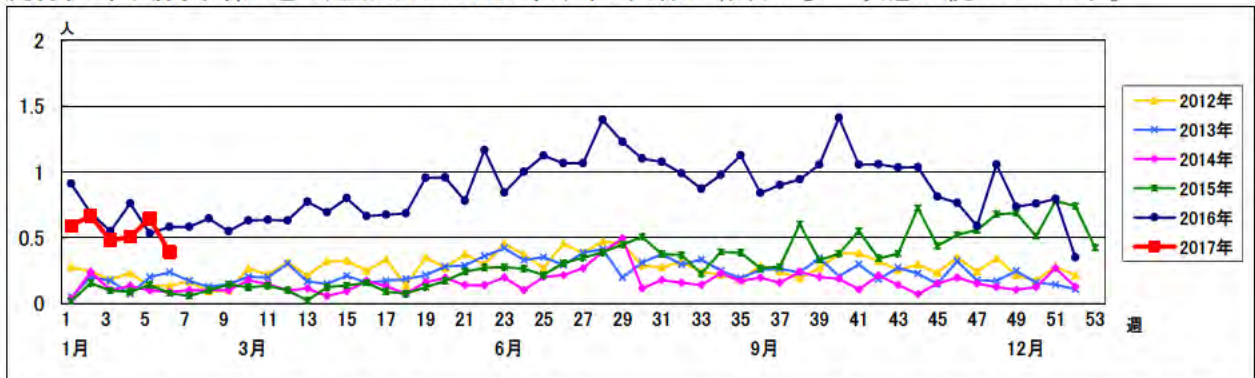
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第4週	1月23日～1月29日
第5週	1月30日～2月5日
第6週	2月6日～2月12日

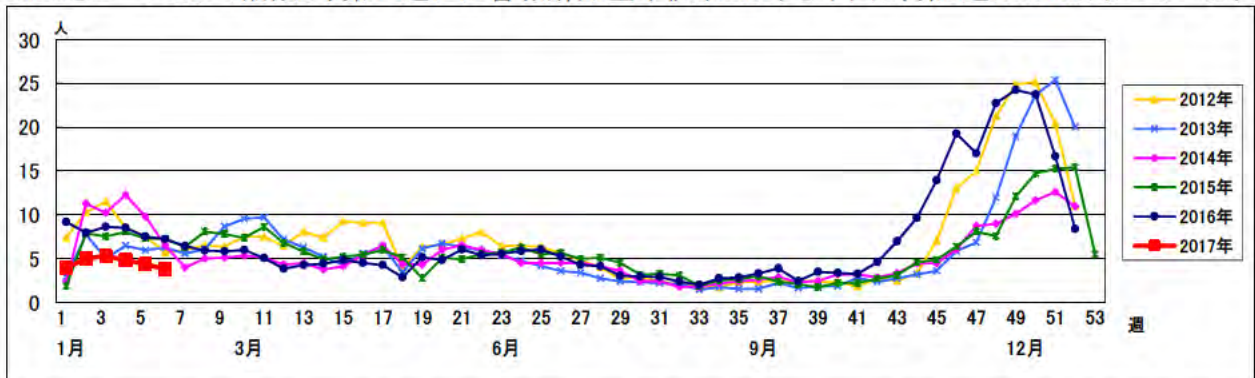
- 1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.39にて流行入り、第51週で13.67にて注意報発令、第3週で32.23にて警報発令となりました。第4週の48.06以降、漸減傾向にあり、第6週は26.65でした。



- 2 流行性耳下腺炎: 第6週で定点あたり0.39と、昨年と同様に報告が多い状態が続いています。



- 3 感染性胃腸炎: 第48週で定点あたり22.73となり、例年に比べて早く警報発令されました。第49週の24.24をピークとして漸減し、第52週には警報解除基準値(12.00)を下回り、第6週は3.78となっています。



- 4 性感染症: 1月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が21件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が7件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。
- 5 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第4週0.00、第5週0.25、第6週0.50、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第4週0.00、第5週0.25、第6週1.00、インフルエンザによる入院は第4週5.00、第5週4.50、第6週2.75と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件、内科定点19件、眼科定点1件、基幹定点22件で、定点外医療機関からは17件でした。

3月9日現在、ウイルス分離54株と各種ウイルス遺伝子4件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	イン フル エン ザ 脳 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	耳 下 腺 炎	熱 性 け い れ ん
アデノ 型未同定					1		
インフルエンザ AH3型	1		45	1			1
インフルエンザ B型			3				
パラインフルエンザ 2型	1						
パラインフルエンザ 4型		1					
ヒトメタニューモ			1				
ヒトコロナ*3	1						
ライノ	1						
ムンプス						1	
合計	2 2	0 1	48 1	1 0	1 0	1 0	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月の感染性胃腸炎は、基幹定点から8件で、腸管凝集性大腸菌(O44:H18、O86a:H+)が2件検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から5件、基幹定点から37件、その他からが43件でした。その他のB群およびG群溶血性レンサ球菌の3株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。インフルエンザ菌はd型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

感染性胃腸炎						
検査年月 定点の区別 件数	2月			2017年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
腸管出血性大腸菌					1	3
腸管凝集性大腸菌		2			3	
サルモネラ属菌					2	2
不検出	0	6	0	0	8	1
その他の感染症						
検査年月 定点の区別 件数	2月			2017年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T4	2		2		
	T6	1		1		
	型別不能	1		1		
B群溶血性レンサ球菌			1			3
G群溶血性レンサ球菌			2			2
レジオネラ属菌						1
インフルエンザ菌	1			1		
肺炎球菌			1			3
結核菌			34			35
百日咳菌		2			2	
その他		35	4		37	8
不検出	0	0	1	0	0	3

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年2月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年2月の総アクセス数は、120,245件でした。前月に比べ約12%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*176.1%、保健情報8.0%、食品衛生5.9%、検査情報月報2.3%、生活環境衛生1.5%、薬事0.4%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

2月のアクセス順位(表1)を見ると、インフルエンザ流行情報を初めとして、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「横浜市感染症情報センタートップページ」で、2位には「横浜市インフルエンザ流行情報10号」、3位は「大麻(マリファナ)について」でした。感染症以外の項目では、「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数が、継続的に上位を占めています。

表1 平成29年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	7,500
2	横浜市インフルエンザ流行情報10号	6,590
3	大麻(マリファナ)について	6,476
4	インフルエンザ流行情報(2016/2017)	6,111
5	横浜市インフルエンザ流行情報12号	5,044
6	横浜市インフルエンザ流行情報11号	4,593
7	衛生研究所トップページ	3,718
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,382
9	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	3,062
10	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,361

データ提供: 市民局広報課

「横浜市感染症情報センター」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「横浜市インフルエンザ流行情報10号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2016/rinji10.pdf>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年2月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成29年2月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
チメロサールとワクチンについて	1	感染症・疫学情報課
食中毒の疑いについて	1	栄区生活衛生課

2 追加・更新記事

平成29年2月に追加・更新した主な記事は、18件でした(表3)。

表3 平成29年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月 1日	ウズベキスタンのこどもの定期予防接種について	更新
2月 2日	横浜市インフルエンザ流行情報10号	掲載
2月 2日	ウガンダのこどもの定期予防接種について	掲載
2月 3日	感染症に気をつけよう(2月号)	掲載
2月 8日	バハマのこどもの定期予防接種について	掲載
2月 9日	横浜市インフルエンザ流行情報11号	掲載
2月10日	フィジーのこどもの定期予防接種について	掲載
2月13日	トリニダード・トバゴのこどもの定期予防接種について	掲載
2月14日	横浜市における麻しん患者届出状況(2016年)	掲載
2月14日	ジャマイカのこどもの定期予防接種について	掲載
2月16日	南アフリカ共和国のこどもの定期予防接種について	掲載
2月16日	横浜市インフルエンザ流行情報12号	掲載
2月21日	ルワンダのこどもの定期予防接種について	掲載
2月23日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成28年)	更新
2月23日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
2月24日	横浜市インフルエンザ流行情報13号	掲載
2月24日	麻しん疑い例のウイルス遺伝子検査結果(2010～2016年)	更新
2月24日	感染症に気をつけよう(3月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】